

(本発表のお問い合わせ先)

美術館美術課

広報資料取扱主任：牧野裕二

電話：087-823-1711

【市長定例記者会見】

高松市美術館特別展「動く！展 ―光と音と運動の芸術―」を開催します。

会期：2026/10/10(土)～11/29(日)



- ◆ 1950 年代～現在までの日本現代美術の展開を「動く」作品をテーマに紹介。
- ◆ アーティストトークや作品を演奏するライブなど関連イベントを多数開催！
- ◆ 田中敦子《電気服》をはじめとする高松市美術館の代表的なコレクションを展示！

■企画概要

特別展「動く！展 ー光と音と運動の芸術」 Art that Moves! -the Art of Light, Sound and Movement

主催： 高松市美術館

会期： 2026 年 10 月 10 日（土）～ 11 月 29 日（日）

休館日： 月曜日（ただし、10 月 12 日（月・祝）、11 月 23 日（月・祝）開館、10 月 13 日（火）、11 月 24 日（火）休館）

開館時間：9:30 ～ 17:00（ただし、金曜日、土曜日は 19:00 閉館／入室は閉館 30 分前まで）

観覧料： 【一般】1,200 円（960 円）、【大学生】600 円（480 円）、【高校生以下】無料

※（ ）内は 20 名以上の団体料金

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料

助成： 芸術文化振興基金

内容：

第二次世界大戦後の日本では、それまでの絵画や彫刻という旧来のジャンルに捉われない美術作品の登場、作家たちの制作方法や活動の場の大きな変化といった出来事を経て、今日に至るまでアートは様々な展開を遂げました。

1950 年代、前衛芸術家グループ「実験工房」や「具体美術協会」のメンバーらは、新しいメディアを積極的に取り入れた作品を発表します。彼らにくわえ、「フルクサス」や「ハイレッド・センター」といった、自身が「動く」パフォーマンスやイベントで表現の幅を広げる作家も登場しました。自由出品の読売アンデパンダン展、舞台や映画と組み合わせたイベントや国際美術展、1970 年の万博、各地での野外彫刻展等、発表の場は増加し、素材や表現方法も多面的な様相を見せていきます。その後、テクノロジーの発展とともに光や音や映像の使用がより身近になり、それらを組み合わせたインスタレーション形式の作品や、観客が参加し「動く」作品といった新しい表現も作品の形式として定着していきます。

高松市美術館は、1988 年の開館当初より「戦後日本の現代美術」を収集方針の一つとしてコレクションを形成し、展覧会やイベントで気鋭のアーティストたちを積極的に紹介してきました。本展では、当館のコレクションを軸に、日本の現代アートの歴史と展開を「動く」をキーワードに振り返ります。アーティストたちの絶えざる新しい挑戦を、「動く」作品を通してお楽しみください。

出品作家（予定）：

顰嘔、青山悟、赤松音呂、秋山邦晴、飯川雄大、池田亮司、諫山元貴、石田尚志、伊藤隆康、井上涼、宇川直宏、大辻清司、小沢剛、加藤翼、金沢健一、河口龍夫、北代省三、工藤哲巳、鯉江良二、鴻池朋子、後藤映則、さわひらき、下道基行、城之内元晴、関根伸夫、高松次郎、多田美波、田中敦子、田中信太郎、束芋、中西夏之、名和晃平、藤本由紀夫、松本俊夫、宮島達男、宮永愛子、森村泰昌、ヤノベケンジ、山口勝弘、山本圭吾、吉田克朗、ヨシダミノル、吉村益信

■関連イベント

アーティストトーク

①『動くアート 100 年史』～キネティックアート、ライトアート、インターメディア、エクспанデッドシネマ、ビデオアート、メディアアート、そしてXR から AI まで』

映像作家、グラフィックデザイナー、VJ、文筆、更にはライブストリーミングスタジオ「DOMMUNE」の運営と、多岐に活躍する現“在”美術家・宇川直宏氏に「動く」アートの歴史と展開についてお聞きます。

日時：10 月 11 日（日）13:30 ～ 15:00（13:15 開場）

講師：宇川直宏（本展出品作家） 聞き手：原久子（当館アートアドバイザー）

会場：1 階講堂 無料／先着 100 名／申込不要

宇川直宏（うかわ・なおひろ）

1968 年香川県生まれ、東京在住。現“在”美術家・DOMMUNE 主宰。映像作家、グラフィックデザイナー、VJ、文筆家、大学教授など、多岐にわたる活動を行う。2010 年 3 月に個人で開局したライブストリーミングスタジオ兼チャンネル「DOMMUNE」は、開局から 16 年を迎え、延べ視聴者数 3 億人超、配信番組数 7,000 番組超を記録。2023 年には練馬区立美術館で個展「宇川直宏展 | FINAL MEDIA THERAPIST @DOMMUNE」を開催。令和 2 年度（第 71 回）芸術選奨文部科学大臣賞受賞（2021 年）。



宇川直宏《NO BREATH [Re 702024 -THE 1000 EXPO'70s MOVIES]》
資料提供：大阪府／©UKAWA NAOHIRO courtesy of ANOMALY

②「旅から定住へ 直島に住みながら活動すること」

出品作《津波石》をはじめ映像作品の展示方法や、2019 年より移住した直島での活動・制作等についてお話しいただきます。

日時：10 月 31 日（土）14:00 ～ 15:00（13:45 開場）

講師：下道基行（本展出品作家）

会場：1 階講堂 無料／先着 100 名／申込不要

下道基之（したみち・もとゆき）

1978 年岡山生まれ、香川県直島在住。2001 年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。2003 年東京総合写真専門学校研究科中退。旅やフィールドワークをベースにした制作活動で知られる。2019 年香川県直島に家族で移住し、地元の人々と一緒に島のアーカイブでありミュージアムを作るプロジェクト『瀬戸内「」資料館』（2019-）開始。2012 年光州ビエンナーレ新人賞、2015 年さがみはら写真新人奨励賞、2019 年 Tokyo Contemporary Art Award 等受賞。2019 年ヴェネチアビエンナーレ日本館参加作家。2020 年第 21 回岡山芸術文化賞グランプリを受賞。京都芸術大学客員教授（2024 年 -）。



下道基行《津波石 #04》2015 年 -、高松市美術館蔵

■関連イベント（つづき）

記念ライブ「Epicurism of Space Universe 2026 空間の美食家 2026」

サウンド・パフォーマンス・ユニット〈現代家族〉による音楽ライブ。ヨシダミノル《シンセサイザー・ジャケット》を演奏します。

日時：10月24日（土）14:00～（1時間程度）

出演：現代家族（吉田みどり、吉田省念、吉田朝麻）

会場：1階エントランスホール 無料／申込不要

現代家族（げんだいかぞく）

2000年に結成された実際の家族によるパフォーマンスグループ。ヨシダミノル（2010年没）、荒木みどり（吉田みどり）、吉田省念、吉田朝麻から成る。2010年ヨシダミノル没後は、生前の様々な表現活動を探りながら広める活動を行い、その中で得られたフィードバックを「現代家族」という場でパフォーマンスを行う。



アドバイザー講座 vol.15「美術批評から読む「動く」作品の展覧会史」

本展出品作品を中心に「動く」作品が発表された当時の美術界の様相や評価、その後現在までの保存やアーカイブについて対談します。

日時：11月14日（土）14:00～（1時間程度）（開場 13:45）

講師：伊村靖子（国立新美術館主任研究員）、原久子（当館アートアドバイザー）

会場：1階講堂 無料／先着 100名／申込不要

伊村靖子（いむら・やすこ）

国立新美術館学芸課情報資料室長・主任研究員。情報科学芸術大学大学院 [IAMAS] 准教授を経て、2022年より現職。『虚像の時代 東野芳明美術批評選』（河出書房新社、2013年）共編、「色彩と空間」展から大阪万博まで――60年代美術と建築の接地面』『現代思想』（第48巻第3号、2020年）のほか、2022年に「国立新美術館所蔵資料に見る1970年代の美術――Do it! わたしの日常が美術になる」「連続講座：美術館を考える」（国立新美術館）の企画を担当。

ギャラリートーク

学芸員：10月10日（土）11:00～

ボランティア civi：会期中の日曜・祝日 各 14:00～

会場：2階展示室 ※要観覧券／申込不要（2階展示室に直接お越しください。）

「見る、聞く、触れる鑑賞会」

内容：音が出たり、触って体験できたりする作品を中心に対話しながら鑑賞します。

日時：11月8日（日）11:00～（1時間程度）

会場：1階エントランスホール、2階展示室 要観覧券／申込不要（1階エントランスホール集合）

※目が見えない／見えにくい方も楽しんでいただけるイベントです。

エントランス・ミニコンサート「トッカータ祭り」

日時：11月7日（土）13:30～14:10

出演：（ピアノ）森西梓、道久明子、平田奈夏子 （ピッコロトランペット）濱田華楓

会場：1階エントランスホール 無料／申込不要

曲：「トッカータ長調 BWV916」「映像第一集より運動」「ピアノソナータ第二番 4楽章トッカータ」「トッカータニ長調」他

■関連イベント（つづき）

特別上映会

出品作品・作家に関連する映画・映像資料を上映いたします。

会場：1 階講堂 定員：各先着 100 名（各開演 15 分前開場） 無料／申込不要

①『田中敦子 もうひとつの具体』（1998 年、監督：岡部あおみ、45 分）

内容：アーティストや関係者のインタビュー、また 50 ～ 60 年代に撮影された当時の活動の記録写真・映像などを交えて、作家・田中敦子に迫るドキュメンタリー映画。

日時：10 月 10 日（土）、11 月 21 日（土）各 14：00 ～



提供：Ufer! Art Documentary

②『石の詩』（1963 年、監督：松本俊夫、TBS、25 分）

内容：庵治村（現・高松市庵治町）の石切場の様子を撮影したアーネスト・サトウの写真を組み合わせて製作された実験的映像作品。音楽は秋山邦晴が担当し、サヌカイトが使用された。

日時：10 月 10 日（土）、11 月 21 日（土）各 15：00

11 月 13 日（金）18:00 ～

11 月 21 日（土）は上映後、**阪本裕文氏**（NPO 法人戦後映像芸術アーカイブ）による解説会を開催します。



提供：NPO 法人戦後映像芸術アーカイブ

阪本裕文（さかもと・ひろふみ）

1974 年生まれ。博士（芸術）。松山大学教授。NPO 法人戦後映像芸術アーカイブ代表理事。戦後日本の非商業的な映画・映像についての研究をおこない、松本俊夫、相原信洋等のアーカイブ化に取り組む。展覧会・上映会監修に「日米初期ビデオアート上映会 ヴァイタル・シグナル」（EAI + 横浜美術館、2009-2010）、「白昼夢 松本俊夫の世界」（久万美術館、2012）等。共著に『新説 松本俊夫論』（戦後映像芸術アーカイブ、2023）、編著に『復刻版 記録映画』（不二出版、2015 ～ 2016）、『松本俊夫著作集成』（森活社、2016-）等。論文に「新理研映画時代の松本俊夫：前衛記録映画論の形成過程」（映像学 104 号）等。

謎とき！美術館からの挑戦状！

展示作品をヒントに美術館から出された謎を解明しましょう！最後まで謎を解けた人には、オリジナルグッズをプレゼント！

日時：会期中いつでも（なくなり次第景品プレゼントは終了します。）

参加方法：2階展示室前に1つ目の謎を示したシートを設置していますので、自由に参加ください。

参加対象：どなたでも（要観覧料・高校生以下は観覧料無料）

ふらっとアート「動くおもちゃをつくろう」

日時：会期中いつでも

場所：中2階こどもアートスペース（こども+）

「びじゅチューン！ 電気さえあれば」特別上映

NHK Eテレの大人気番組「びじゅチューン！」より、井上涼さんが《電気服》をテーマに制作した「電気さえあれば」を会期中、1 階エントランスホールとランチギャラリー（丸亀町商店街「しごとプラザ」ショーウィンドー内）でループ上映します。

© NHK・井上涼 2026



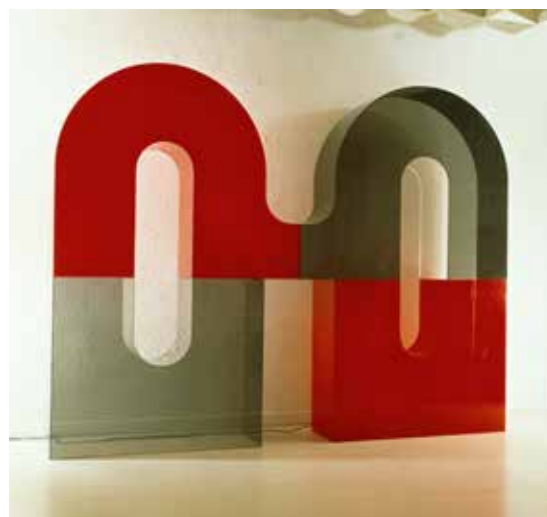
■ 広報用画像（ご希望の方は担当にお知らせください。）



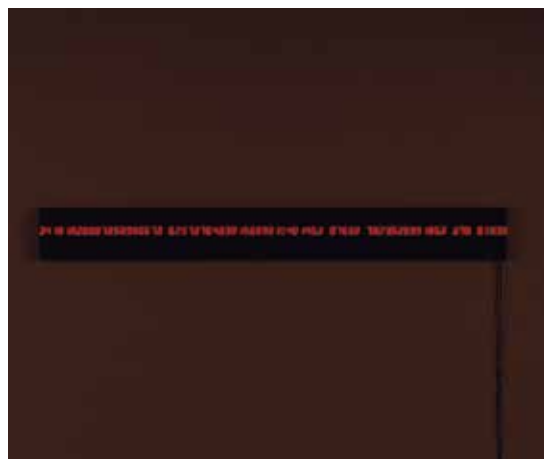
①



②



③



④



⑤



⑥



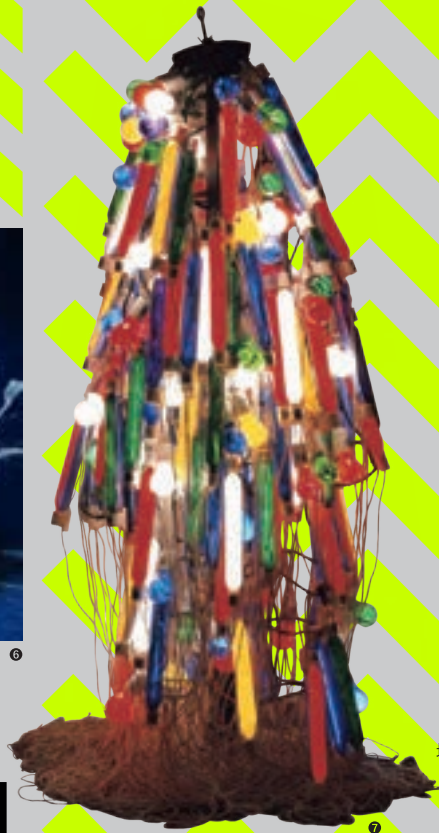
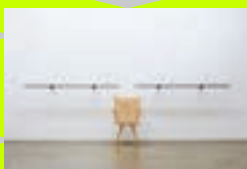
⑦



⑧

キャプション・クレジット（写真掲載の際には必ず表記してください。）

①田中敦子《電気服》1956/86 年、高松市美術館蔵 ©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association 撮影：加藤 成文
 ②ヨシダミノル《シンセサイザー・ジャケット #04》2000 年、個人蔵 ③山口勝弘《Kiss》1968 年、高松市美術館蔵
 ©The Estate of Katsuhiro Yamaguchi ④宮島達男《Counter Line No.1》1988 年、高松市美術館蔵 ©Tatsuo Miyajima
 ⑤ヤノベケンジ《ミニ・アトムスーツ》2003-13 年、高松市美術館蔵 ©Kenji Yanobe ⑥石田尚志《正方形の窓》2015 年、
 高松市美術館蔵 ©Ishida Takashi ⑦宮永愛子《ポストー景色》2010 年、高松市美術館蔵 ©MIYANAGA Aiko, Courtesy of
 Mizuma Art Gallery ⑧鴻池朋子《Wolf Bench ―Takamatsu》2026 年、高松市美術館蔵 ©Tomoko Konoike



穀嘯
 青山悟
 赤松音呂
 秋山邦晴
 飯川雄大
 池田亮司
 諫山元貴
 石田尚志
 伊藤隆康
 井上涼
 宇川直宏
 大辻清司
 小沢剛
 加藤翼
 金沢健一
 河口龍夫
 北代省三
 工藤哲巳
 鯉江良二
 鴻池朋子
 後藤映則
 さわひらき
 下道基行
 城之内元晴
 関根伸夫
 高松次郎
 多田美波
 田中敦子
 田中信太郎
 束芋
 中西夏之
 名和晃平
 藤本由紀夫
 松本俊夫
 宮島達男
 宮永愛子
 森村泰昌
 ヤノベケンジ
 山口勝弘
 山本圭吾
 吉田克朗
 ヨシダミノル
 吉村益信

関連イベント

アーティストトーク

①『『動くアート100年史』～キネティックアート、ライトアート、インターメディア、エクステンデッドシネマ、ビデオアート、メディアアート、そしてXRからAIまで』

映像作家、グラフィックデザイナー、VJ、文筆、更にはライブストリーミングスタジオ「DOMMUNE」の運営と、多岐に活躍する現“在”美術家・宇川直宏氏に「動く」アートの歴史と展開についてお聞きます。

10月11日(日) 13:30～15:00(13:15開場)

講師:宇川直宏(本展出品作家) 聞き手:原久子(当館アートアドバイザー)

会場:1階講堂 定員:先着100名 無料・申込不要

②「旅から定住へ 直島に住みながら活動すること」

出品作《津波石》をはじめ映像作品の展示方法や、2019年より移住した直島での活動・制作等についてお話しいたします。

10月31日(土) 14:00～15:00(13:45開場)

講師:下道基行(本展出品作家)

会場:1階講堂 定員:先着100名 無料・申込不要

記念ライブ

「Epicurism of Space Universe 2026 空間の美食家 2026」

サウンド・パフォーマンス・ユニット(現代家族)による音楽ライブ。ヨシダミノル《シンセサイザー・ジャケット》を演奏します。

10月24日(土) 14:00～(1時間程度)

出演:現代家族(吉田みどり、吉田省念、吉田朝麻)

会場:1階エントランスホール 無料・申込不要

アートアドバイザー講座vol.15

「美術批評から読む 「動く」作品の展覧会史」

本展出品作品を中心に「動く」作品が発表された当時の美術界の様相や評価、その後現在までの保存やアーカイブについて対談します。

11月14日(土) 14:00～(1時間程度)

講師:伊村靖子(国立新美術館主任研究員)、原久子(当館アートアドバイザー)

会場:1階講堂 無料・申込不要

ギャラリートーク

学芸員:10月10日(土) 11:00～

ボランティアcivi:会期中の日曜・祝日(ただし10月11日を除く)各14:00～

会場:2階展示室 ※要観覧券・申込不要

「見る、聞く、触れる鑑賞会」

音が出たり、触って体験できたりする作品を中心に対話しながら鑑賞します。

11月8日(日) 11:00～(1時間程度)

会場:1階エントランスホール、2階展示室

※要観覧券・申込不要(1階エントランスホールに直接お越しください。)

※目が見えない・見えにくい方も楽しんでいただけるイベントです。

特別上映会

会場:1階講堂 定員:各先着100名(各15分前開場) 無料・申込不要

①『田中敦子 もうひとつの具体』(1998年、監督:岡部あおみ、45分)

10月10日(土)、11月21日(土) 各14:00～

②『石の詩』(1963年、監督:松本俊夫、TBS、25分)

10月10日(土)、11月21日(土) 各15:00～、11月13日(金) 18:00～

11月21日(土)は上映後、阪本裕文氏(NPO法人戦後映像芸術アーカイブ)による解説会を開催します。

エントランス・ミニコンサート「トッカータ祭り」

11月7日(土) 13:30～14:10

出演:(ピアノ)森西梓、道久明子、平田奈夏子、(ピッコロトランペット)濱田華楓

会場:1階エントランスホール 無料・申込不要

曲:「トッカータ長調BWV916」他

謎とき! 美術館からの挑戦状!

展示作品をヒントに美術館から出された謎を解明しましょう!最後まで謎を解けた人には、オリジナルグッズをプレゼント!

日時:会期中いつでも(なくなり次第景品プレゼントは終了します。)

参加方法:2階展示室前に1つ目の謎を示したシートを設置していますので、自由にご参加ください。

参加対象:どなたでも(要観覧券・高校生以下は観覧料無料)

ふらっとアート「動くおもちゃをつくろう」

日時:会期中いつでも 場所:中2階子どもアートスペース(こども+)

「びじゅチューン!電気さえあれば」特別上映

NHK Eテレの大人気番組「びじゅチューン!」より、井上涼さんが《電気服》をテーマに制作した「電気さえあれば」を会期中、1階エントランスホールとランチギャラリーでループ上映します。

日時:会期中開館時ずっと



©NHK・井上涼 2026

特別展

動く!展

光と音と運動の芸術

Art that Moves!
the Art of Light, Sound and Movement



特別展「動く!展 —光と音と運動の芸術—

主催 | 高松市美術館 助成 | 芸術文化振興基金

休館日 | 月曜日(ただし、10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)開館、10月13日(火)、11月24日(火)休館)

開館時間 | 9:30-17:00(ただし、金曜日、土曜日は19:00閉館/入室は閉館30分前まで)

観覧料 | [一般]1,200円(960円)、[大学生]600円(480円)、[高校生以下]無料

*()内は20名以上の団体料金

*身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料



2026 10.10-11.29
sat. ~ sun.

高松市美術館
TAKAMATSU ART MUSEUM



大辻清司「円形劇場形式による創作劇の夕」月に憑かれたピエロ、1955年12月
《eyewitness》より 1955年、高松市美術館蔵 ©Tetsuo Otsuji / Courtesy YOKOTA TOKYO



城之内元晴《シェルタープラン》1964年、城之内元晴エステート蔵



宇川直宏《NO BREATH[Re 702024 -THE 1000 EXPO'70s MOVIES.]》2024年、作家蔵
資料提供：大阪府／©UKAWA NAOHIRO courtesy of ANOMALY



『銀輪』（監督：矢部正男、松本俊夫、樋口源一郎）、
1956年、国立映画アーカイブ蔵



宮永愛子《ポストー景色》2010年、高松市美術館蔵
©MIYANAGA Aiko, Courtesy of Mizuma Art Gallery



赤松音呂《チョウズマキ》2016年、高松市美術館蔵

Art that Moves! the Art of Light, Sound and Movement

第二次世界大戦後の日本では、絵画や彫刻という旧来のジャンルに捉われない美術作品の登場、作家たちの制作方法や活動の場の大きな変化といった出来事を経て、今日に至るまでアートは様々な展開を遂げました。

1950年代、前衛芸術家グループ「実験工房」や「具体美術協会」のメンバーらは、新しいメディアを積極的に取り入れた作品を発表します。彼らにくわえ、「フルクサス」や「ハイレッド・センター」といった、自身が「動く」パフォーマンスやイベントで表現の幅を広げる作家も登場しました。自由出品の読売アンデパンダン展、舞台や映画と組み合わせたイベントや国際美術展、1970年の万国博覧会、各地での野外彫刻展等、発表の場は増加し、素材や表現方法も多面的な様相を見せていきます。その後、テクノロジーの発展とともに光や音や映像の使用がより身近になり、それらを組み合わせたインスタレーション形式の作品や、観客が参加し「動く」作品といった新しい表現も定着していきます。

高松市美術館は、1988年の開館当初より「戦後日本の現代美術」を収集方針の一つとしてコレクションを形成し、展覧会やイベントで気鋭のアーティストたちを積極的に紹介してきました。本展では、当館のコレクションを軸に、日本の現代アートの歴史と展開を「動く」をキーワードに振り返ります。アーティストたちの絶えざる新しい挑戦を、「動く」作品を通してお楽しみください。

出品作家(予定)：饗嘔、青山悟、赤松音呂、秋山邦晴、飯川雄大、池田亮司、諫山元貴、石田尚志、伊藤隆康、井上涼、宇川直宏、大辻清司、小沢剛、加藤翼、金沢健一、河口龍夫、北代省三、工藤哲巳、鯉江良二、鴻池朋子、後藤映則、さわひらき、下道基行、城之内元晴、関根伸夫、高松次郎、多田美波、田中敦子、田中信太郎、束芋、中西夏之、名和晃平、藤本由紀夫、松本俊夫、宮島達男、宮永愛子、森村泰昌、ヤノベケンジ、山口勝弘、山本圭吾、吉田克朗、ヨシダミノル、吉村益信



田中信太郎《ハートのモビール》1974年、高松市美術館



鴻池朋子《Wolf Bench 一Takamatsu》2026年、高松市美術館蔵 ©Tomoko Konoike



ヨシダミノル《シンセサイザー・ジャケット #04》
2000年(#01:1974年制作)、個人蔵

表面図版❶北代省三《モビール・オブジェ 回転する面による構成》(部分)1953年、高松市美術館蔵 ©YOKOTA TOKYO／❷中西夏之《コンパクト・オブジェ》1968年、高松市美術館蔵 ©NATSUYUKI NAKANISHI／❸下道基行《津波石 #04》2015年、高松市美術館蔵／❹藤本由紀夫《EARS WITH CHAIR (on the wall)》1990-93年、高松市美術館蔵／❺後藤映則《Numbers #01》2017年、高松市美術館蔵／❻石田尚志《正方形の窓》2015年、高松市美術館蔵 ©Ishida Takashi／❼田中敦子《電気服》1956/86年、高松市美術館蔵 ©Kanyama Akira and Tanaka Atsuko Association 撮影：加藤 成文／❽山口勝弘《Kiss》1968年、高松市美術館蔵 ©The Estate of Katsuhiro Yamaguchi／❾さわひらき《eight minutes》2005年、高松市美術館蔵 ©Hiraki Sawa Courtesy of Ota Fine Arts／❿ヤノベケンジ《ミニ・アトムスーツ》2003-13年、高松市美術館蔵 ©Kenji Yanobe／⓫宮島達男《Counter Line No.1》1988年、高松市美術館蔵 ©Tatsuo Miyajima

同時開催
第3期コレクション展 会期：9月30日(水)～12月27日(日)

アクセス

JR四国：高松駅下車、徒歩約15分
ことでん：瓦町駅または片原町駅下車、徒歩約10分
路線バス：紺屋町または丸亀町参番街東館下車、徒歩約3分
高速バス：県庁通り下車、徒歩約8分
駐車場：美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)
*駐車場の混雑状況については「どこ駐車ナビ高松」で確認いただけます。



TAKAMATSU ART MUSEUM

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel. 087-823-1711 www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/





(本発表のお問い合わせ先)
市民課
広報資料取扱主任: 小河 司
電話 839-2282

【市長定例記者会見】本庁舎でのキオスク端末による証明書交付サービスの開始について

窓口DX推進に向けた取組の一つとして、窓口の混雑緩和やマイナンバーカードの利活用、コンビニ交付の利用促進を目的に、本庁舎でのキオスク端末による証明書交付サービスを10月1日より開始いたします。

1 内容

本庁舎内にコンビニ事業者が管理するキオスク端末を設置し、マイナンバーカードを利用した証明書の交付サービスを開始いたします。

2 開始日

令和8年10月1日(木)から

3 設置場所

本庁舎1階フロア(2台設置)

4 利用可能時間

平日 午前8時30分から午後5時まで

5 取得できる証明書

- ・戸籍の全部(個人)事項証明書
- ・戸籍の附票の写し
- ・住民票の写し
- ・住民票記載事項証明書
- ・印鑑登録証明書
- ・市県民税の所得課税証明書
- ・市県民税の納税証明書

5 設置事業者

株式会社ローソン

(本発表のお問い合わせ先)
こども家庭課
広報資料取扱主任： 山下 裕文
電話 087-839-2353

【市長定例記者会見】 養育費確保等支援の拡充等について

1 概 要

ひとり親家庭等の生活の安定と子どもの健やかな成長を支える環境づくりを図るため、養育費の確保等につながる支援メニューを拡充します。



2 支援メニュー

支援メニュー		補助上限額
養育費等の取決めに係る費用補助		
公正証書等による債務名義の作成支援	実施済	3万円
戸籍謄本等の書類取得補助	実施済	
養育費等の取決めに係る弁護士の活用支援	【新規】	15万円
ADR(裁判外紛争解決手続)の活用支援	【新規】	5万円
養育費の履行確保に係る費用補助		
養育費受取に係る弁護士の活用支援	【新規】	15万円
養育費受取に係る手続費用の補助	【新規】	3万円
保証契約支援(自治体モデルの活用)	《拡充》	5万円

3 対象者

- ・住民票が高松市にある方
- ・申請時においてひとり親または協議離婚中で、養育費の請求権を有するまたは予定の方
- ・上記、支援メニューに係る費用を負担または負担予定の方
- ・市税の滞納がない方

4 施行日

- ・令和8年10月1日(※新規メニューは、本年4月1日から適用)



5 その他

- ・養育費の履行確保に係る費用補助のうち、保証契約支援(自治体モデル)につきましては、10月1日に保証会社である株式会社イントラストと協定の締結予定です。(※9月25日付け、Press Release済)